

国語(第2回)

		得点率 (%)
1 説明文	問一	75.5
	問二	47.2
	問三	67.4
	問四	85.1
	問五	83.4
	問六	100
	問七	88.2
	問八	92.3
2 物語文	問一	74.1
	問二	52.7
	問三	57.3
	問四	42.1
	問五	70.3
	問六	88.3
	問七	21.5
	問八	83.0

合格者最高点 91
合格者最低点 54

1 出典 加藤秀俊『人間関係』

前半では、人間関係を築くのに「ことば」が大きな役割を果たしていることが書かれ、後半では、「わかる」ということは共感や同一化といわれる作用であるというのがこの文章の趣旨といえます。

問一 人間だけが、互いに親密になれる理由を問う問題です。7行目で、動物同士は親密になることができないことが書かれ、人間との差については、12行目「われわれがお互いに親しくつきあえるのは、ことばを使うことができるからなのである。」と書いてあります。さらに、31行目には「人間同士ことばを使うことによって、お互いに『わかる』ことができるから」とあることから答えを導きだします。選択肢に惑わされた解答も見られました。

問二 動物のことばと人間のことばの違いについて、筆者は30行目で「大きな割れ目がある」と論じています。そして、大きな割れ目の原因を「人間同士ことばを使うことによって、お互いに『わかる』ことができるから」と31行目で説明しています。また、設問では、動物のことばについて説明するように指示があるので、これについては34行目の「特定の刺戟にたいするほとんど本能的な反応のようなもの」という表現を用いて書きます。以上の3つのポイントをまとめたものが3割程度でした。動物と人間との「差異の大きさ」について言及してないものも目立ちました。設問の要求を考えて書くことが求められます。

問三 後半部の文脈が読み取れているかの問いです。傍線(3)の後、38行目に「共感という考え方が、この問題を考える場合、有力な手がかりのひとつなる」とあり、また、67行目では「この共感作用は『同一化』ということばで記述される過程とかさなりあう。」とありますので、「共感」「同一化」という言葉を軸にそれらがどういう状況なのかを説明します。さらに68行目の「相手方の置かれている状況だの、相手方の内部で発生している状態だのと似た状況や状態を体験すること」がその内容となるので、この部分を用いて答えます。問二と同様、設問の内容を考えて書くことが求められますが、それらをきちんとまとめた答案は少なく、差のついた問題となりました。

問四 「こまやかな」という語句の意味についての問いです。本文中での「こまやか」とは細かいという意味ではなく、愛情についての表現です。細かいという意味のアとエは消去され、イとウが残ります。子どもの痛がる様子を見て、母親が痛くなることが書かれているわけですから、子どもから母親への愛情の方向が書かれているウはあてはまりません。得点率もまずまずでした。

問五 空欄補充の問題。(5)の前に「もっと単純な」とありますので、前の段落を見ます。49行目の「共感」について述べられた内容であることがわかります。さらに、50行目、52行目「生理的な」とありますので、これらを組み合わせて考えます。全体的によくできていました。

問六 接続詞の問題です。Aの前後で、人間は親密になれるがイヌやネコは深いまじわりをもてないことが書かれているので、逆接の接続詞の「だが」が答えになります。Bの段落では、お医者さんと患者の関係の例が出ているわけですから、「たとえば」が答え。Cは、医者言葉による「共感」の例に加え、生理的な痛みの次元の共感について書かれているので、「そして」が正解です。よくできていました。

問七 漢字の書きとり。正しい画数で書いていることを示すためには、丁寧な楷書で書くことが必要です。

問八 内容合致の問題です。68行目以降から79行目までは、同一化についての説明が例を伴って説明されており、ウと合致することがわかります。アは、「想像力豊かな感性の高い医師は生理的な痛みを伴う」の部分が誤りです。イは、「人間の持つ本能的な反応」とは、本文では書かれていません。エは、「ことばの使用を抜きにして」の部分が本文の記述に反しています。よくできていました。

リード文にあるように、友人を事故で亡くした主人公が鷹の飼育を通じて交友関係を築き、喪失したものを再生していく話です。①の説明文より理解するのが難しかったようです。

- 問一 理央の心情を問う問題です。36行目では借りたままになってしまった手袋のことで遥の母に謝っています。39行目では「ぎゅっと目をつぶ」って、怒られることを覚悟している理央にとって遥の母の反応は思いがけない言葉でした。そこで、正解はイになります。よくできていました。
- 問二 遥の母に、手袋を返すことで本当によいのかと聞かれ、45行目に心細くなってしまうことが書かれていますので、答えはウになります。アは、「あまり感じなかったが」の部分が、イは、「自分へのふがいなさ」が、エは「悲壮な気持ち」の部分がそれぞれ誤りです。選択肢に惑わされたものが多く、正答率は5割ほどでした。
- 問三 99行目に「その言葉が、カチンと理央の心につっかかった。」とあります。モコに力がないといわれたように感じた理央の表情を表す表現は、「こわばらせる」が正解になります。誤答としては「ゆがませる」を選んだものが多かったです。苦痛や痛みなどに顔を「ゆがませる」ことはありますが、この場合は相手の言葉に腹を立てているわけですので、あてはまりません。消去法で最後に二つ残った時、どちらが文意にふさわしいのかよく考えることが必要です。
- 問四 舞子については、モコの頭をなでようとしたり、訓練よりも112行目にあるように「ごはんくらいゆっくり食べたいよね」と甘やかしている姿が描かれています。一方、理央については、126行目にあるように「野生が目覚めて、飛ぶことを覚え」させることが大切と考えていることがわかります。この点についてまとめて答えます。野性化とペット化の対比ができた答えはほとんどなく、きびしさとやさしさといったレベルの答えがほとんどで、差のついた問題となりました。
- 問五 康太の性格については、131行目「ふたりのあいだの険悪な空気を感じて、しょげいなさげにはほえんでいる」箇所や、154行目以降で、いらだっている理央にあせりの原因を気づかせたりしていることが書かれています。舞子と理央の関係について険悪な空気を感じていますので、イの「人間関係などは気に留めない」の部分があやまりになります。あてはまらない選択肢を選ぶ問いですので、正解はイです。得点率もまずまずでした。
- 問六 慣用句の問題、今回は「舌」を使った言葉でした。よくできていました。

問七 傍線部 (7) の「はっと顔をあげ」たのは、康太の言葉で気づいたことがあったからです。何に気づいたのかといえば、亡くなった遙にモコが飛ぶ姿を見せたいがゆえに訓練が少しも進まないあせりを周囲にぶつけていたことです。康太の言葉で気づいたことと、気づいた内容についての二点を書く必要があります。「自分が間違っていたことに気づいた」という解答が目立ち、その内容に触れられているものは非常に少なく、差のついた問題となりました。

問八 内容合致の問題です。

アは 11 行目で遙から借りた手袋を返さねばと思いながら、踏み切れずにいることが書かれ、20 行目で、やはりはめています。そして、なんとか決心をつけて遙の家に行きますが、手袋を差し出したものの心が不安定になり、小刻みに振るえて、心細くなっている様子が 38 行目に書かれます。つまり手袋は理央にとって、心の安定の働きをしてくれるものであり、それが書かれているアが正解です。

イは「本当は一刻も早く返してほしい」の部分が、誤り。

ウは「その後も明るく、前向きな気分で訓練に取り組めるようになった」の部分が誤り。

エは、「負い目をまぎらわそうとして」の部分が本文の内容と異なっています。

全体的によくできていました。